

(様式1)

平成26年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 規律ある自由 (2) 自学自習 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	目指す人間像として「もって生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を掲げ、知・徳・体ともに調和がとれ、リーダーとして社会に貢献できる人材を育成することを目指して日々教育活動を展開している。単なる知識偏重ではなく、自ら考え、自ら解決に向け努力する生徒の育成を目指している。しかし年々精神的に不安定な生徒が増えてきており、主体的な行動力の育成が急務である。自ら高い志を掲げ、困難に挑戦していく気質をもった生徒を育て、地域の中心校としての期待に応えることが必要である。
(3) 重点目標	1. 一人一人を理解し、一人一人の能力を伸ばし、一人一人の進路を実現する学校
	2. 努力して取り組むことを重視し日常化していく学校
	3. 家庭・地域のニーズに応え、連携して生徒の進路実現を図る信頼される学校
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載している。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。

学校番号	9
学 校 名	弘前高等学校
全 日 制課程	本校・校舎・分校

自己評価実施日	平成27年1月30日(金)
学校関係者評価実施日	平成27年2月7日(土)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員(5名) 有識者同窓生 2名、卒業生保護者 1名 有識者大学関係1名、有識者地域代表1名

自 己 評 価				学校関係者評価	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	一人一人を理解し、一人一人の能力を伸ばし、一人一人の進路を実現する学校	一人一人を理解するために ～個性とニーズの把握～	QUテストの実施により学級集団の理解、生徒個々の特性の理解に役立て、支援を必要とする生徒の早期把握に努めた。またグループエンカウンター、学習状況調査、進路志望調査、さらにははじめ、体罰の調査など生徒個々の理解に学年や分掌が全力で臨んでおり、学年は個々の学力向上、進路志望達成のための面談に力を入れている。入学から最後の出口まで生徒一人一人に教員の持てる力を注ぎ込むことができた。	A	納得できる達成度だと感じる。自分を評価するのは難しいと思うが、職員間で出されたコメントは大事にし、次に活かしていく体制が必要だと思う。自己評価において数字として統計を取ることばもちろん大事なことであるが、その平均値にとらわれすぎることはよくない。冷静にその統計を分析することを望む。
		一人一人の能力を伸ばすために ～学力の向上～			
		一人一人の進路を実現するために ～出口保証～			
2	努力して取り組むことを重視し日常化していく学校	努力して取り組むために ～克己と賞賛～	生徒が主体的に学習や部活動など日々の活動に取り組めるよう、授業や総合的な学習の時間において生徒が自ら努力する雰囲気を作り出すことに工夫を凝らした。目標を持てずに苦しんでいる生徒には担任のみならず、教科担当者、養護教諭なども深く関わることもできた。	A	理解できる評価結果だと思う。ほとんどの生徒は高い志を持って本校を目指してくるが、入学後に現実とのギャップに苦しむことにも理解できる。一人一人に先生方が誠意を持って接してくれているのは十分認識していて満足している。これからも変わらずお願いしたい。
3	家庭・地域のニーズに応え、連携して生徒の進路実現を図る信頼される学校	家庭・地域と連携するために ～情報公開～	地域の拠点校としての自覚は、生徒・教職員とも十分持っている。学校と家庭・地域・関係各機関との連携の重要性も感じており、特に保護者とは繰り返し面談を実施して情報交換に努め、共通認識を持つよう努力した。しかし情報発信に関しては、まだまだ工夫が必要な状態である。	B	妥当で正直な自己評価結果だと思う。大学でも、地域とどう向き合うか、地域にどう貢献していくかは大きなテーマだと聞いている。高校であればなおさらだと思う。その意味で学年通信はとてありがたい情報源だが、学年間に発行数の差があるのが気になる。
				(10) 次年度への課題と改善策	
				生徒一人一人の理解、学力向上、出口保証については今の方針のままさらに深化することによって目標の達成に向かいたい。しかし年々特別な支援を必要とする生徒も増えており、これまでの接し方では生活改善が進まない場合も出てきている。生徒理解のための方策を探りながら今後も組織的に問題解決に取り組んでいくようにしたい。	
				本校は努力することを厭わない、志の高い生徒が多くいる。しかし教職員の何気ない一言がその前向きな姿勢に水を差すこともあり得る。生徒が主体的に努力することをしっかり応援できる教師力を様々な研修等を通してさらに向上させていくこととする。	
				これまで同様、保護者との強い絆を作り上げていくことはもちろん、各関係機関との連携も保っていききたい。今後大きく教育制度が変わっていく中、他の高校との連携も強めていく必要がある。情報発信に関しては積極性を持って臨みたい。	

(11) 総括	創立130年を超え、多方面で活躍する数多くの諸先輩を抱える伝統校の一員であることを生徒は十分理解している。そして本校の生徒であることに誇りを感じている。伝統的に生徒の自主性を育むことに力を注いできた。そして生徒はそれに応え主体的な行動ができるように育っている。進路の達成についても最後にはきちんと力を発揮できる生徒がたくさん居り、学校としてぶれることなく、自信を持って日々教育活動に邁進している。平成27年度から定員減となるが、引き続き家庭・地域と連携を強め、生徒一人一人の主体性の育成と進路実現に全力を尽くす所存である。
---------	---